

## まえがき

東あるいはラティスというのは、ある種の“演算が指定された集合”すなわち“代数系”であって、近ごろよく話題になるブール代数もその1種である。本書では、この代数系および一般の集合について、ごく基本的な事実とごく基本的な考え方を紹介する。これを理解するためには、数学上の予備知識をほとんど要しない。ごく一部分で“極限”の考えと“数学的帰納法”を用いているのが、数学上の手段の最高限度である。

しかし、これは入門書であって通俗書ではないから、多少の積極性を読者に期待する。基本的な考え方を紹介するからには、たとえば、きびしい論理性を示すこともあるが、そのような箇所を初心者が理解するには、いくらか読みなおし、考えなおすことが必要になるかもしれない。

本書にはいわゆる練習問題を設けない。しかし、ある程度まで話が進んでからは、推論や計算の途中をわずかに省略する箇所が散在するようになる。それを補うことが多少の練習になるであろう。また、考えの自然な流れを重んじて、物語りのように話を進めるので、記述の形式が定理・証明の系列というように整理されてはいないし、一般論と特殊な場合の考察とを交互に行なっている部分もある。これらを整理しながら読むことは、良い練習になるであろう。

久しく絶版になっていた旧著の“束論”は、河出書房から共立出版株式会社へ著作権が引き渡され、全面的な改訂の上でここに再生することになった。改訂に際して、語法と体裁をあらため、内容の細部にも手を入れたが、題材や配列には変更を加えなかった。最初に述べたような趣旨の入門書としては、特に新

しい題材を加える必要もないし、配列にも十分に想を練ってあったと思うのである。

昭和41年9月

著者 するす